

第4章 観光交流基本施策

1 全体施策の体系

取組の基本方針を踏まえて観光交流を総合的に推進していくため、事業の柱となる 11 の施策を下記にまとめました。これを基本に、実施主体、実施時期や手順を勘案しながら効果的・効率的な施策の展開を図ります。

施策① おもてなしの人づくり・取組の推進

施策② 観光資源の発掘・創出と整備・活用

施策③ まちの個性を活かした新たな魅力づくり

施策④ びわ湖を活かした魅力づくり

施策⑤ 物語を感じる周遊ルートづくり

施策⑥ 魅力を高める広域観光の推進

施策⑦ 安全・安心な観光を楽しめる環境の充実

施策⑧ 情報発信力の強化

施策⑨ 集客交流のための誘致活動推進

施策⑩ 外国人来訪者への対応強化

施策⑪ 観光戦略に必要な基礎情報・推進体制の整備

2 施策の内容

全体施策① おもてなしの人づくり・取組の推進

考え方

観光交流は既存の観光資源だけでなくそれぞれの地域の魅力を発信していくべきものです。そのためには観光交流を進める人と活動の充実が重要であり、既存の観光事業者だけでなく、市民や団体の活動、地域での取組が活発になっていく必要があります。

大津市では、すでに中心市街地や郊外地域などで地域主体の交流活動の芽が育ち広がりつつあります。これらの蓄積も活かしながら観光まちづくり活動として、来訪者を迎えることのできる人材の育成や地域での取組の支援を進めます。このときに、市民が大津市を知り大津市を好きになることから始め、観光交流に関わる様々な知識と経験を積みあげていくようなプロセスを重視していきます。

また、来訪者が気持ちよく滞在しそれぞれの体験をよりよい思い出とするには、魅力的な観光資源の存在に加えて、地域の人との交流、おもてなしの心＝ホスピタリティが不可欠です。子どもからお年寄りまで、大津市民すべてが来訪者に対するおもてなしの心を持てるような、家庭、地域、学校などでの意識醸成とボランティアガイドのしくみづくりなどを進めていきます。

施策

- ◆ 観光教育の推進（知識、意識と行動）
- ◆ 観光交流リーダーの育成
- ◆ 観光ボランティアの育成
- ◆ 地域からの観光交流活動の支援



観光ボランティアガイドの説明風景



小学校副読本「わたしたちの大津」

全体施策② 観光資源の発掘・創出と整備・活用

考え方

大津市を代表する観光資源としては、石山寺や坂本などの歴史文化資源、びわ湖や比良山系などの自然資源などがあり、これらを大切に守り将来世代へと継承していくとともに、周辺環境の整備や演出で価値を高め、活用していきます。

また、観光に対する価値観が多様化している現在、これまで特に観光的な要素が無いと思われてきた、地域の伝統的なくらし・食べ物や産業、あたりまえの田園風景、小さなお店、環境や文化の取組などが注目されるようになってきました。自然・歴史文化の多様性に富んだ大津市には、これからの観光資源となりうる個性にとんだ潜在資源ともいえるものが多数あり、それらを発掘し、磨き、付加価値をつけていくよう取組んでいきます。

施策

- ◆ 観光資源の発掘・整備
- ◆ 伝統行事・伝統芸能等の保存・継承
- ◆ 伝統技術の観光活用（産業、物産、生活等）
- ◆ 食の発掘と活用



山王祭



船幸祭



棚田（栗原）

全体施策③ まちの個性を活かした新たな魅力づくり

考え方

今や新たなツーリズムの時代になっているといわれ、地域の個性的な資源を活かしたテーマ性の高い着地型観光が注目されています。このニューツーリズムは、多様性に富んだ幅広い来訪者の受け皿となり、観光ポテンシャルを高めるとともに大津市のブランドイメージ形成に資するものであり、従来型の観光に加え、今後の大津市観光の柱となるものと期待できます。

大津市の特性を活かし、里山・里地の農作業や森林管理、環境保全などの体験、散在するギャラリーなどの文化資源やイベントなどの探訪、浜大津の古い町並みや生活を味わうまち歩き、オープンカフェやフリーマーケットなどのにぎわい、びわ湖伝統の漁業やものづくり探訪など、大津市をじっくりと楽しめる多様なプログラムを創りだしていきます。

施策

- ◆ 体験型観光の推進
- ◆ エコツーリズム・グリーンツーリズム※の推進
- ◆ まち歩き観光の推進
- ◆ 産業観光の推進
- ◆ 周遊観光の推進
- ◆ 大津ブランドの確立



町家見学



カヤック体験

※ グリーンツーリズム (green tourism)

都市住民が農山漁村に滞在し、地域の自然や景観、暮らし、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動のこと。

全体施策④ びわ湖を活かした魅力づくり

考え方

びわ湖は大津市の観光魅力の源泉ともいえるもので、他ではみられないそのスケールは遠来の来訪者を魅了します。さらに、周りを取り囲む森や川などの里山の自然、そこから生まれた歴史文化、さらに大津市、滋賀県が全国に先がけて取り組んできた湖沼環境保全の取組なども、びわ湖の魅力を厚みのあるものとしており、これをさらに活かしていくことが大切です。

「びわ湖」を大津市観光共通のシンボルとしてアピールしていくことが、ともすれば一体感に乏しいといわれる大津市のイメージの形成、大津ブランドの確立の上でも重要であり、湖岸や山からの美しい景観、湖岸に沿った周遊や水上での体験、遊び、学びの楽しみ、びわ湖が育んできた文化や物産など、幅広い視点からの観光商品化やPR等を進めていきます。

施策

- ◆ 湖上交通の活用
- ◆ 湖上・湖岸観光の推進
- ◆ びわ湖の自然・文化・食観光の推進
- ◆ びわ湖環境学習観光の推進



琵琶湖遊覧船となぎさ公園



近江舞子水泳場

全体施策⑤ 物語を感じる周遊ルートづくり

考え方

地域には多種多様な観光資源が散在しており、新緑や紅葉などの四季の自然、イベントや伝統行事などは楽しめる時期や日時も異なっています。これらをつ結びつけていくことで相乗効果が生まれ、注目されにくかった個々の資源に光があたるとともに、地域の回遊性を高め、観光の魅力を増すことが期待できます。

大津市内では、芭蕉や城跡といったテーマでの周遊ルートもありますが、さらに地域の歴史・風土を活かした物語性の高いルートづくりに取り組むとともに、単独で行われているイベントのテーマや実施時期等の関連性に着目したキャンペーン等により相互の連携を強めていきます。

施策

- ◆ テーマ別観光ルートの策定・充実
- ◆ イベント・行事の連携
- ◆ 公共交通機関との連携
- ◆ 温泉の活用

「源氏物語千年紀」での源氏物語をテーマにした周遊ルート

全体施策⑥ 魅力を高める広域観光の推進

考え方

来訪者は行政の境界を意識されません。テーマやイメージを共有していれば地域を越えた周遊を楽しむことができ、そのことにより特定の地域単独では難しい広域的な集客や長期滞在を実現させていくことにも繋がります。そこで大津市の観光資源に磨きをかけるとともに、より広域的観点からの結びつきを強化し、地域魅力と集客力を高めることが重要となります。

大津市は日本有数の観光地である京都市に隣接し、京都市とは歴史文化的にも社会経済的にも深い関わりを持っており、この特性を活かし、京都―大津の周遊コースや宿泊施設の広域利用などの連携により京都観光客の誘引を図ります。また、滋賀県内のびわ湖沿岸地域や里山の自然がつながる高島市、びわ湖南湖を取り囲む湖南地域、源氏物語千年紀でつながった宇治市、さらには関西地域などとも連携して、大津市を軸とする周遊性を高めていきます。

施策

- ◆ 観光圏整備事業の検討・実施
- ◆ 近隣地域との広域観光交流の推進



広域的な連携のイメージ

全体施策⑦ 安全・安心な観光を楽しめる環境の充実

考え方

観光地の魅力は、直接対象となる観光資源の質が問われることはもちろんですが、まち全体の空気や水のきれいさ、佇まいや美しさなども大切な要素となります。また、子どもやお年寄りはもとより、車椅子や視覚障害の方など誰もが安心して楽しめるユニバーサルなまち、犯罪や事故、災害の不安が無くのびやかに過ごせるまちは、来訪者をお迎えするための基盤的環境です。

このことは市民の日常生活の快適さや豊かさを確保し、生活の質を高めていくことと同じ取組であり、まちぐるみでの身近な生活環境づくり、美しいわが家、わがまちの景観づくりを進めることで観光交流を促進していくとともに、来訪者が安心して大津市で過ごせるような安全安心情報の提供などに努めていきます。

施策

- ◆ 環境・景観の保全と形成
- ◆ ユニバーサルデザイン※化の推進
- ◆ 安全・安心対策の推進
- ◆ 観光施設の整備



歴史的景観の整った
坂本のまちなみ



バリアフリースイール・観光案内板
(逢坂の関記念公園)

※ ユニバーサルデザイン(universal design)

障害をもつ人々のために、製品・建物・環境などを特別にデザインするのではなく、障害者・高齢者・健常者などの区別なしに、すべての人が使いやすいようにデザインすること。

全体施策⑧ 情報発信力の強化

考え方

観光に関する情報の発信は観光交流の促進に不可欠なものであり、大津市への旅の誘い・企画から観光途中、後にその体験を思い出すといった各段階において、その発想・行動の場面と情報ニーズを想定しながら適切な情報を効果的な方法で発信していくことが求められます。また、地域の関係情報を連携させ一括して提供していくことが重要です。

そのためには、常に地域で取り組まれている観光交流関連の活動の動向を把握しておくことが基本となり、情報収集ネットワークを構築、維持することに努めます。

情報の提供については、インターネットや携帯電話などのIT機器を活用できるよう整備していくことは言うまでもありませんが、各地の観光案内所や観光マップ、観光案内板なども充実させ、手軽に情報利用ができるように努めていきます。

また、街角などでの出会い・交流を通じて一人ひとりの市民の口から伝えられる情報は、それ自身が観光資源であるという認識で、市民すべてが情報発信源となれるよう、お迎え側の市民や事業者に向けた観光関連情報提供のしくみづくりを進めていきます。

施策

- ◆ 情報収集・整理
- ◆ IT活用の推進
- ◆ 観光事業者の情報提供・相談機能の強化
- ◆ メディアへの情報発信
- ◆ 物産宣伝活動の充実



大津市ホームページでの観光情報提供



大津市観光キャラクター「おつ光るくん」

全体施策⑨ 集客交流のための誘致活動推進

考え方

大津市への来訪者を増やすためにコンベンションやイベント、教育旅行（修学旅行）等の誘致が効果的です。会議等本来の目的による来訪効果はもちろんのこと、それに加えて少し足をのぼし、時間を費やして大津市内を訪ね楽しんでもらうことで、観光交流の効果が一層高まるとともに、その結果として大津ファンをつくりリピーターを獲得することにもつながります。

そのために、大津市が持つ観光資源、宿泊施設や飲食店等サービス機能、さらに環境、文化、社会経済等のポテンシャルを把握し、これらを来訪目的に活かせるプログラムとして整備し、積極的なプロモーションの展開に努めていきます。

施策

- ◆ 大型コンベンションの誘致
- ◆ 教育旅行の誘致
- ◆ スポーツイベントの誘致
- ◆ 映画・テレビのロケーションの誘致
- ◆ プロモーション、キャンペーンの実施



第21回全国スポーツ・レクリエーション祭



全国男女共同参画宣言都市サミット in おおつ

全体施策⑩ 外国人来訪者への対応強化

考え方

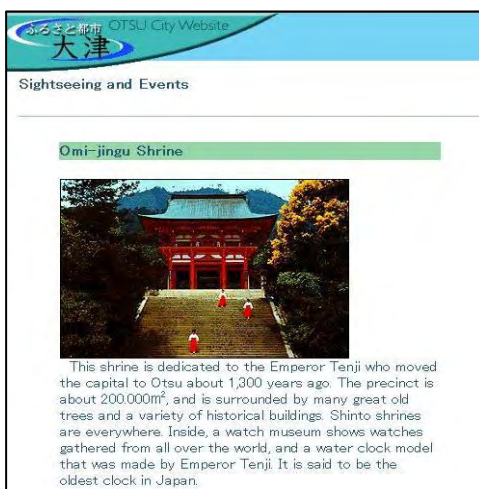
国や滋賀県においては、外国人来訪者増加に向けた取組が進んでいますが、大津市においても対応を強化する必要があります。観光資源の発掘から商品化、情報発信、受け入れ体制までを含めて、外国人の視点から一貫した取組をしていくことが重要です。

そのためには、地域のターゲットを想定しながら、大津市が持つ自然、歴史、文化、町並みなどの何に興味を持たれるのかを把握しておくことが重要であり、その方向に従って磨き売り出していくためのメニュー・プログラムづくりを優先させます。

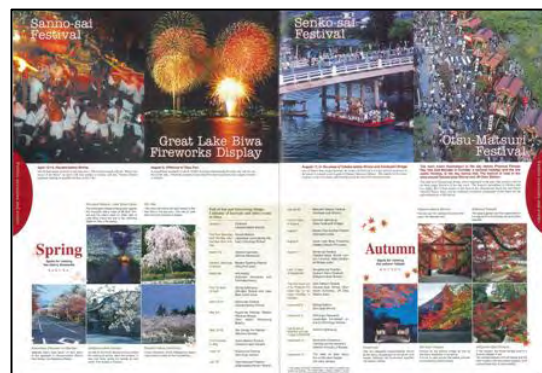
また、国際的知名度が抜群で高い外国人集客力を誇る京都市に隣接立地するという大津市の優位性を活かし、京都市との連携での売り出しを図ることが効果的であり、京都市と異なる大津の個性の発揮と京都市との連続性の両面を勘案した商品化、プロモーションを展開することも必要です。

施策

- ◆ 人材育成の推進
- ◆ 受入体制の整備
- ◆ 情報発信の強化
- ◆ 誘致活動の推進
- ◆ 外国人から見た魅力発見とメニュー・プログラムづくり



大津市ホームページ（英語）



大津市観光パンフレット（英語）

全体施策⑪

観光戦略に必要な基礎情報・推進体制の整備

考え方

観光交流の取組は市民・事業者・団体・行政のあらゆる主体に関わりがあるといっても過言ではありません。大津市観光を戦略的かつ確実に推進していくためには、これらの主体が協働で推進できる環境を整えていくことが求められます。

これまでの大津市観光の推進は、行政、11の観光協会、商工会議所等の団体、事業者が、一定の連携はとりながらも個々に活動することが多く、戦略目標を共有し役割分担を明確にして行動する機会は少なかったといえます。また市民やNPO団体をはじめ地域団体等いわゆる「観光」に直接関わらない主体の参加は限られたものでした。

観光交流に関わる取組やその成果を的確に把握し、それに基づき関係主体が連携して戦略を練り実行できるような体制を充実していきます。

施策

- ◆ 各組織の連携強化
- ◆ 観光戦略会議の設置
- ◆ 来訪者動向・アンケート調査の実施
- ◆ 観光資源・情報の収集・管理

